

令和7年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：オオムギ赤かび病・コムギ赤かび病（No.2）

令和8年3月26日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

1 1月中旬播きの二条大麦「はるさやか」は4月上旬に、小麦「はる風ふわり」では4月中旬頃に出穂すると見込まれ、これからムギ類の赤かび病の防除時期を迎えます。

赤かび病の発病によって収量や品質が低下するばかりでなく、**かび毒の基準値違反で出荷できなくなる可能性もあります。**

本病の発生後の防除は困難であるので、麦の生育状況をよく確認し、**適期を逃がさずに基幹防除を徹底してください。**

2 麦類の生育状況及び気象状況

(1) 二条大麦「はるさやか」において、農業試験場内の1 1月7日播きでは3月29日の出穂、県中部の1 1月中旬播きでは4月上旬の出穂が予想されている。また、農業試験場内の1 1月7日播きの小麦「はる風ふわり」では4月中旬頃の出穂が予想されている。

(2) 中国地方1か月予報（3月26日発表）による降水量は平年並か多く、気温は高く、平年と比べ晴れの日が少ないと見込まれている。なお、週別の気温の見込みは次のとおりである。

第1週目（3月28日～4月3日）：高い確率80%

第2週目（4月4日～10日）：高い確率70%

第3～4週（4月11日～24日）：高い確率60%

3 防除上注意すべき事項

(1) 赤かび病は、出穂から乳熟期における曇雨天及び高温により発病が助長される。1か月予報から、ムギ類の出穂後は高温傾向で推移し、降水量は平年並みか多い見込みであることから、本病の発生助長が懸念される。

(2) 赤かび病の発病によって収量や品質が低下するばかりでなく、かび毒の基準値違反で出荷できなくなる可能性もあるので、すべての麦種で防除を徹底する。

(3) 防除時期及び使用薬剤は表1を参考とする。赤かび病の防除は適期を逃さず行うことが重要であり、特に1回目の防除を遅れずに実施する。

表1 ムギ類の赤かび病の防除時期及び使用農薬

	麦種	防除時期	使用農薬（例）
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	または
	小麦	〃	ワークアップ粉剤DL
2回目	二条大麦	1回目散布の7～10日後 （多発生が予想される場合）	トップジンM水和剤
	六条大麦	1回目散布の7～10日後	または
	小麦		トップジンM粉剤DL

- (4) 水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、必ず展着剤を加用する。
- (5) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する（表2）。特に小麦、大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので、注意する。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。
- (6) 大麦ではチオファネートメチル剤（トップジンM水和剤、同ゾル、同粉剤DL等）の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので、注意する。
- (7) DMI剤（FRACコード：3、シルバキュアフロアブル、ワークアップ粉剤DL等）は耐性菌が発生しやすいので、2回以上防除を行う場合は連続使用を避ける。

表2 麦類の赤かび病の主要防除薬剤（令和7年4月7日現在）

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分 (FRACコード)
シルバキュア フロアブル	2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内	テブコナゾール (3)
		小麦:収穫7日前まで	2回以内	
ワークアップ フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メトコナゾール (3)
ワークアップ 粉剤DL	3kg/10a			
トップジンM 水和剤	1,000 ~1,500倍	大麦:収穫30日前まで	3回以内(出穂期以 降は1回以内)	チオファネート メチル (1)
		小麦:収穫14日前まで	3回以内(出穂期以 降は2回以内)	
トップジンM ゾル	1,500倍	収穫14日前まで	大麦:3回以内(出 穂期以降は1回以 内)	
	1,000 ~1,500倍		小麦:3回以内(出 穂期以降は2回以 内)	
トップジンM 粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	大麦:3回以内(出 穂期以降は1回以 内)	
			小麦:3回以内(出 穂期以降は2回以 内)	
ミラビス フロアブル	1,500 ~2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内	ピジフルメトフ エン (7)
		小麦:収穫7日前まで		

(注) 多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジンM水和剤、トップジンMゾル、ワークアップフロアブル及びミラビスフロアブルの防除効果が高い。